

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
<input type="checkbox"/>	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく暮らしていける様、独自の理念を作り上げており、職員全員に浸透出来る様、努めている。		
<input type="checkbox"/>	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の教務の中で管理者と職員は意見を交わし、理念に基づいた方向性を失わない様取り組んでいる。		
<input type="checkbox"/>	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	できる限り外出の機会を多く設け、地域住民や施設との交流を多く図るよう努力している。また、運営推進会議時には外出時の様子や結果を報告し、行事内容を理解して頂いている		
2. 地域との支えあい				
<input type="checkbox"/>	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣住民よりの差し入れ等頂いており、それに対しお歳暮等でのお返しを行い、交流を図っている。		
<input type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	お神輿担ぎ等、町の行事に積極的に参加し、交流に努めている。また、できる限りバスハイク等の外出の機会を作り、地域施設等への見学・行事への参加を行っている	○	緊急時等は近隣の方々が助けにきていただけたらとの言葉をいただいております、食材の提供もして下さっている。また、お歳暮等のお返しを行うことで交流を深めることに努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議時に地域住民の方々に参加して頂き、施設で運営する行事に対して話し合いの機会を作っている。また、グループホームをはじめ老人ホーム等に関する問い合わせがあった場合には、受け答えを行うよう努めている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員に自己評価の内容を把握してもらい、全員で評価に対して参加している。また、これを自身を振り返る良い機会として位置付け改善に努めている		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近隣住民、ご家族に参加を依頼し、サービスの内容や取り組みに対して説明・評価を行っている。また、意見があった場合には真に受け止め、サービス向上に活かしている	○	近隣の方々にも案内を出し、苑との交流を深める様努めている。また、会議時にはバーベキュー等の行事と合わせ、楽しみを含めた会議としている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外にも受け入れの態勢を作っており、意見・質問等あった場合には適切な受け答えを行うよう努め、サービスの質の向上に取り組んでいる		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度の必要性を個々で検討し、関係者と話し合いを行う体制を取り、活用できるよう支援している		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は毎月勉強会を開き、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を作っている。又利用者の生活環境や事業所内で虐待がないよう、つとめている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	時間をかけて入居者や家族に十分説明を行い納得して頂くまで説明を行う。また、不安や疑問点などは聞き出し理解された上で契約を結んでいる	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	玄関に苦情箱の設置や相談窓口の名前または中部広域連合など外部の相談窓口の案内などを貼っている。2か月に一回の運営推進会議でも気軽に話して頂くよう信頼関係づくりに努め意見を頂いている。	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	ホーム便りや面会時、また電話にて随時利用者の生活状況が分かるように連絡をしている。又、健康状態の変化や事故等があった場合、速やかに報告を行っている	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	玄関に苦情箱を設置し、苦情担当を設けている。又、面会時(入居者に対し少なくとも週に一回あり)に積極的に話しかけ意見、不満など聞くようにしている。運営推進会議や家族会なども同様である。頂いた意見はすぐに協議し改善にむけ実行している。家族には改善したことを報告している。	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	運営者・管理者が共にスタッフ会議に参加し、意見や提案を傾聴し、スタッフ同士で意見を行い、活かしている	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	毎月ケアスタッフ会議を開き、当日の夜勤者を交代で変更し、全員が参加出来る様配慮している。また、会議の議事録をとり、参加できなかった職員にも目を通してもらっている。	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	会社内で移動がある場合は十分な引き継ぎを行い、入居者にはスムーズに受け入れて頂くよう他のスタッフがフォローをし、徐々に信頼を築く様努力している。また、入居者に年に4回程度の他事業所合同の行事に参加して頂き、人事異動前や後であっても触れあえる機会として活用している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	FC勉強会や外部の研修会の参加により知識や質の向上に努めている	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	フランチャイズグループホーム同士での交流研修の機会があり、他のホームを経験し感性を磨く事が出来ている	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	お互い注意しあえるような職場の環境作りに努め、スタッフ間のコミュニケーションを密にしている。又、親睦会や互助会でのレク開催など多数参加して頂き、仕事以外の楽しみも設けている	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	常に日々の努力や実績、勤務状況を把握し、スタッフには「誉めて伸ばす」というように話合い雰囲気作りを行い、各自向上心を持って働ける様努めている	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人が安心して利用して頂けるよう、事前に面接を行い要望、不安などを聞き、日ごろの生活の中で相談できる時間を作るよう努力している	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族が困っている事や不安などを聞き、苑で出来る対応などを説明し、要望を受け止め、家族との信頼関係を築く事に努力している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、何に対して不安を抱えているか・必要としているものが何かを迅速に見極め、会社外のサービスを含め、説明や紹介を行っている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人に負担を負わさぬよう、利用の前に家族等と相談し、段階を踏みながらサービスを行うようにしている。また出来る限り本人様に見学に来て頂き、施設の雰囲気を感じて頂いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	苑での生活を一緒に過ごし、会話・レクの中で喜怒哀楽を共に感じあえる様、互いに信頼し支えあう関係を築いている		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族・スタッフが共に苑行事に参加し、喜怒哀楽を一緒に感じあえる関係を気づいており、運営推進会議とバーベキュー会・そうめん流し等の企画を合わせ、家族・入居者・職員が共に楽しめる機会を作っている		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が面会に来られた際には、良い関係が保てるようスタッフが間に入り、話題作りをしている		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで続けていた事をスタッフが把握し、定期的に行きつけの場所に行ったり、昔から使用していたものを部屋に置いたりして支援に努めている		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が良い関係になるよう、スタッフが間に入り対応し、コミュニケーション、レクの参加を「ゆつくり・いっしょに・たのしく」という理念の下で支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	いつでも遊びに来て頂けるよう説明し、何か相談ごとでもあればいつでも相談を受ける事など関係を断ち切らないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の言動などを見極め否定せず家族協力の下、その人に合った支援を行っている。また利用者中心であり、本人のペースに合わせた支援を行っている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者個々の生活歴シート、ケアプランを全スタッフが把握し、レク・会話・支援に取り入れ本人らしく生活ができる様支援している		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の申し送りや申し送りノートの活用、月に一回のスタッフミーティングで話し合い、利用者一人一人を統合的に把握し、残存機能を生かした支援を行っている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアカンファレンス(月一回)にての話し合い、又事前に家族から意見を聞くなど情報収集に努め、本人が安心して生活できるよう担当者やケアマネで作成し、本人家族に説明・捺印をもらっている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に一回モニタリング期間に応じて評価・見直しを行っている。状態変化時、その都度カンファレンスを開催、新規計画・追加プランを担当者・ケアマネで作成し、本人家族に説明・捺印をして頂いている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を細かくわかりやすく個別に記録し、利用者一人一人に合ったケアができる様に月一回職員の意見交換を行い、実践や介護計画の見直しに活かしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況で病院付き添いができない場合、家族に代わって付き添っている。また、夜間であっても提携先の病院や看護婦と連携をとり、24時間体制で対応可能な状況を作っている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の方々、警察、消防など協力体制は整っている。民生委員や老人クラブの会長などは2か月に一回運営推進会議に参加して頂いている		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じ、本人・家族の意向を取り入れ地域サービスが利用できるよう、意見交換を行い連携を図っている		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて情報交換を行い、連携を図っている。また運営推進会議にも参加して頂き、定期的に意見や情報交換を行っている		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者全員がかかりつけ医があり、急変時にすぐに適切な医療処置が受けられよう体制ができている。また、月一回の往診、定期的な検査を行い利用者の状態報告・把握ができている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じて専門の医師に診察して頂いている。認知症、その他の疾病の相談、助言をもらえるよう確保している。医療機関の理解・配慮が十分にできている		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており、日常の健康管理、医療的なケアができるようにしている。他スタッフと話し合い、統一したケアができ、早期発見につながっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	主治医の指示に従って早期退院が出来る様に本人・家族の方も含め話し合いを行っている。退院後も安心・安全に過ごせるよう努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化及び終末期の指針を、本人・家族と取り交わしており、早い段階より話し合いをしていき、本人・家族の意向を取り入れ対応指針を考慮している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人・家族の意向を医師・看護師、職員関係者全員が把握し、具体的な内容を検討し、本人が安楽な生活が送れるよう統一した対応を行っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人・家族と十分に話し合い、今までの生活から大きく離れないように身の回りの環境が急激に変化しない様整備し、安心して過ごして頂けるよう努めている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の方にはほこりやプライバシーに配慮した言葉使いや態度に気をつけている。個人情報の取り扱いについては細心の注意を払い、玄関に掲示しスタッフとも契約を交わし、取扱いの徹底をしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の能力に合わせた説明を行い、自己決定できるように支援を行う。回想法などを利用しながら本人の思いや希望を出せるようスタッフの洞察力の向上に努めている	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活ペースを把握し、又最優先し本人に合った時間に本人のペースに合わせた支援をしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居者の望む店へ行き、本人の望むような髪型を伝え、その人らしい身だしなみが出る様支援している	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配食サービス利用の為、食材豊かな献立を提供しており、おやつなどを一緒に料理・買出し片付け等入居者と共に日常的作業を行っている。	○ 入居者と共に食事の準備や後片付け(テーブル拭き・食器拭き・配膳・下膳等)を行い、それに対し入居者様にとっても楽しみを持って行って頂いている
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者の方に合わせたおやつを作ったり火の扱いに十分注意した上でタバコを吸って頂いたり、一人一人の状況に合わせた嗜好の支援をしている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排せつパターンをチェックし、把握することで、その時間にトイレ案内を行う等、おむつ使用頻度を減らす事が出来るようにしている。また、清潔保持や皮膚状態の観察に努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日中いつでも入浴できる様に準備している。毎日入浴したい、孫と入りたいなど入居者の希望にそった入浴の実施(健康状態確認の上)		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者の休息と活動のバランスを把握し日中の活動を促したり安眠できる環境の提供を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	残存機能を生かした日常的作業をスタッフと共に行ったり、生活歴や情報提供書により本人の楽しみを見つけ出しスタッフと共に行う。散歩や買い物など外出する事で気分転換を図る。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望で(家族了解済)個人で保管されており、一緒に買い物に出掛けている。持参されていない方も買い物時などはお金を渡し支払って頂いている。(立替金にて処理・家族了解済)		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	苑外ドライブ、月に1~2回実施や散歩などその入居者の能力に応じ畑や花の世話をしている。近隣のスーパーで買物や散髪に出掛けている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎月1~2回の苑外ドライブの実施や他の場所での食事会、敬老会後の家族会の開催など外出支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の訴えがあった場合TELをかける様に対応している。用件で家族に連絡する場合、可能なかぎり最後に本人と変わって話を頂く様心掛けている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室に案内し近況報告などスタッフと同苑者と家族で気軽に話す事が出来る様な雰囲気作りに努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会の実施。巡回等の周知徹底に努めていて、とくに夜間少しでの物音でも居室に伺い確認を行っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	だれでも自由に入出入り出来る様に日中は玄関を開放している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、利用者の所在の確認を行い出入り口は玄関のみとなっている。玄関にはセンサーの配置済である。居室は必ず戸を閉めスタッフが入る場合ノック等を行い確認の上訪問する。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者に応じて事故の原因となる物品は本人に説明。納得の上スタッフであずかる。ただしライターのみは必ずスタッフ管理(喫煙者の利用者がある為)		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	勉強会の実施。利用者の状態に応じて事前に危険因子は取り除く。巡回や見守りの周知徹底、緊急連絡網の作成、貼布。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	自施設勉強会やFC勉強会の実施。救急法のマニュアルを作りいつでもスタッフが見て勉強出来る様にしている。救命救急士による救急法の講習会開催		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議にて地域の人々への協力の働きかけや地域の消防団への依頼を行っている。消防署による消火・避難訓練を行い、同時に近隣との共同訓練も行っている。喫煙場所の設定。ライターはスタッフ管理。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	担当者会議やプラン評価時その都度家族とスタッフで話し合いを行っている。その都度状況に応じて面会時やTELでの連絡で話し合いを行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック、排尿、排便の確認など表情からもいち早く五感をふるに活用し早期発見に努めている。気付いた時にはNs、Drに連絡。指示等は必ず申し送りノートに記入。スタッフ全員が確認する様行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	自施設勉強会や薬の変更があった場合は、その都度Nsより申し送りノートに記入。スタッフ全員が確認する様行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の排便チェック、水分量のチェックを行っている。レクでの体操や散歩など体を動かして頂く様工夫を行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの実施。自立支援者にも声掛け等行い確認を行っている。定期的に訪問歯科往診の実施。週1回ポリデント洗浄(義歯の入居者)		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による配食サービスの利用によりバランスのとれた食事の提供を行い又、食事量と水分量もチェックする。また糖尿病などカロリー計算が必要な入居者は個別で対応する。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルがありスタッフ間での周知徹底や自施設勉強会の実施		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎食、配食サービスの利用により産地の確かな新鮮で安全な食材の提供。手洗いの徹底や毎日調理用具の消毒を行う。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関ポーチに花のプランターを置き明るく親しみやすい雰囲気を作っている。玄関先には季節感あふれる貼り絵など利用者製作の作品を飾っている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓が東南にある為、なるべく自然の光を取り入れている。日差しの強い時はレースのカーテンで光を柔らかくして対応している。またリビングには入居者より花を生けて頂いたり苑外ドライブの写真や掲示物を貼ったり落ち着きのある環境作りに努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのコーナーにソファを配置し思い思いに過ごせるようにしている。また玄関先にソファを置き一人で過ごせるスペースを設けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や小物など持ち込んで頂き普段に近い状況で安心して生活出来る様工夫している		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各部屋に冷暖房を設置し快適に過ごせるよう温度管理を行っている。空気の入れ替えはこまめに行い換気に努めている。温度計を設置している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は全面バリアフリーで廊下や床には余計な物を置かないようにして歩行を妨げないように十分注意している。廊下両側に手すりバーを設置し歩行の補助をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者一人一人の理解力を把握しトラブルや混乱がない様に快適で安全な環境作りを行う。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	苑の庭に畑を作り入居者と共に野菜作りをしたり、花を植えたりして草むしりや水やりなど活動できるように活かしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		も
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ 配食サービス利用により栄養面ではバランスの取れた食事の提供が出来ている。
- ・ 苑外活動(ドライブ) や買い物など外に出掛ける機会が多い。利用者の方は大変喜んでおり、気分転換が出来ている。
- ・ 他のグループホームとの交流会など行っていて、利用者様もスタッフを子供や孫のように思ってもらい信頼関係が出来ている。
- ・ 希望される入居者様には毎日入浴の実施